

親子で島根ダム巡り



豪快な放流の様子を観察できた三成ダム＝奥出雲町

夏休みの親子を対象にした島根県東部のダム巡りツアーが12日、開かれた。参加者らは尾原ダム（雲南市木次町）と三成ダム（奥出雲町）、千本ダム（松江市）とタイプの異なるダムを見学。昼食に「ダムカレー」を食べるなど、ダムについて1日を過ごした。

昼食に「ダムカレー」も

ダムへの理解を深めても参加した。らおと、県技術士会青年部会が企画。県内の小・中・高管理支所内で、通常は入



巨大な堤体を下部から見学した尾原ダム＝雲南市木次町

操作室で職員の説明を聞く参加者たち
＝雲南市木次町の尾原ダム管理支所



れない操作室を見学したりしたあと、ダム堤体の下部へ。ダムにためた水を流す際、近くの民家への騒音の影響を減らすため水中放流方式を採用した構造などについて、職員が説明した。国内初の本格的アーチダムとして土木遺産に認定された三成ダムでは、堤体上から豪快な放流の様子などを見学。松江市の上水道水源として建設された千本ダムでは、堤体や浄水設備などを見学したり、「ダムカレー」を自作したりした。

昼食は、奥出雲町の「佐白温泉長者の湯」でダムカレー。同町地域おこし協力隊員の大西健太さん（28）が考案したオリジナルメニューで、尾原ダムが雲南・奥出雲両市町にまたがっているのにちなみ、ダムをかたどったごはんを挟んで種類の異なる具材のカレーが楽しめる趣向だ。

参加した松江市の中学1



昼食に出された尾原ダムのオリジナルダムカレー＝奥出雲町の「佐白温泉長者の湯」

年、水津創君（19）は「大きなダムを間近で見ることができた。ダムカレーはサバの具のほかがおいしかった」と話していた。長島哲郎・部長は「この催しを通じ、科学技術を駆使して地元で作られた構造物に触れることで、一人でも多くの若者が将来を志すことに残り、技術系の道に進んでほしい」と期待している。

ダムの仕組みや役割学ぶ

県東部3カ所親子ツアー

県内の建設業者などみや役割を学んだ。でつくる県技術士会は JR松江駅(松江市)12日、県東部のダムを見学する親子向けツアーを開いた。9組24人が参加し、ダムの仕組みの千本ダムの順に巡つ



三成ダムを見学する親子連れたち

た。

三成ダムでは、県企業局の職員からダムが水の圧力を分散させるアーチ形になっているなど解説を受け、普段は入れない堰堤へ。落差約40メートルの放水路を流れ落ちる水に歓声を上げていた。

夏休みの自由研究に役立ててもらい、県内業者の技術力を知って将来の県内就職につなげようと企画した。

松江市比津が丘の中学1年、川上真子さん(13)は「ダムの壁や水の音が思っていたよりも大きくて驚いた」と話していた。

(秋吉正哉)